

年収150万円

で暮らす法

吉田 清彦

のだ。あとは、下着と靴下を何回か買ったくらいのものだらう。

もともと、ファッションなどというものには、ほとんど興味がない。高いお金を出してブランド物の衣料を買った人などというのは、私とは別の世界の住人のことだと思っている。

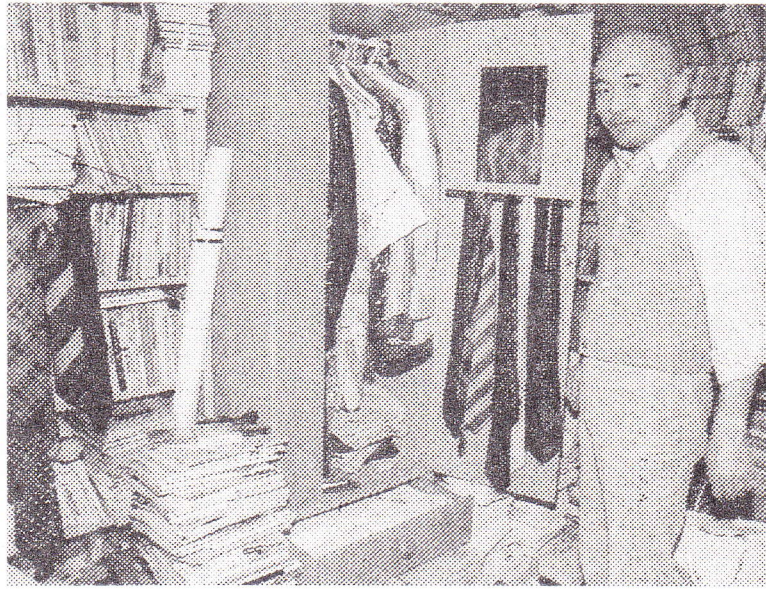
着たきり雀と言われようとも

普通、衣料費というのは、生活費のなかで一体どれくらい占めるものなのだろうか。ファッションを気にする女性などの場合は相当高くつくに違いない。何も女性でなくとも、今時は、若い男性や子供などもみんな、流行の衣服を身にまわっている。結構、お金がかかっているのだ。

ところが、私の場合、衣料費は、限りなくゼロに近い。なにしろ、ここ数年の間に衣料品らしいものを買った記憶を繰り寄せてみても、五年ほど前の寝間着と着とスポーツシャツ二枚

くらい買わないといっても、

扉の裏にもう一つミニたんす。セーターやシャツを入れる。写っている衣類は贈り物も結構ある(神戸市灘区の自宅)



汚れたら草木染め

と、タンスの中には、けっこうな数の衣類がしまわ

れ、迷惑をかけているわけ

ではないので、別に恥ずかし

いとも何とも思わない。

クリーニング屋のおば

ち、タンズの中には、けっこうな数の衣類がしまわ

れ、迷惑をかけているわけ

ではないので、別に恥ずかし

いとも何とも思わない。

クリーニング屋のおば

嫌みを言われても、一向に気にしない。白のスボンやカッターシャツが薄汚れてくると、玉葱(ねぎ)の皮や紅茶で「草木染め」をする。そうすると、汚れはほとんど隠れて、

屋敷にし、もっとひどくなると雑巾(ぞうきん)代わりとなる。そんな私でも、外出時は、どんなものでもいいかという、やはりお気に入りのラクダ色のジャケットを、もっぱら愛用した今年の冬は、さしずめ「ラクダ吉田」と、うわさされているのではないだろうか。(フリーライター)